



## 平成24年12月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月9日

上場会社名 オエノンホールディングス株式会社

上場取引所 東 大 名 札

コード番号 2533 URL <http://www.oenon.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 幸夫

問合せ先責任者 (役職名) コーポレートコミュニケーション室長 (氏名) 牛込 真澄

TEL 03-3575-2777

四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成24年12月期第2四半期の連結業績(平成24年1月1日～平成24年6月30日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年12月期第2四半期	40,328	2.3	1,207	10.0	1,177	8.2	557	137.5
23年12月期第2四半期	39,437	△0.5	1,097	53.1	1,088	63.8	234	48.7

(注) 包括利益 24年12月期第2四半期 626百万円 (145.8%) 23年12月期第2四半期 254百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年12月期第2四半期	8.55	—
23年12月期第2四半期	3.59	—

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年12月期第2四半期	58,125	20,111	30.6
23年12月期	60,819	20,134	29.2

(参考) 自己資本 24年12月期第2四半期 17,793百万円 23年12月期 17,774百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年12月期	—	—	—	7.00	7.00
24年12月期	—	—	—	—	—
24年12月期(予想)	—	—	—	7.00	7.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 平成24年12月期の連結業績予想(平成24年1月1日～平成24年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	85,000	2.0	2,650	5.0	2,500	0.6	1,200	29.1	18.39

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	24年12月期2Q	65,586,196 株	23年12月期	65,586,196 株
② 期末自己株式数	24年12月期2Q	863,048 株	23年12月期	318,843 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	24年12月期2Q	65,175,694 株	23年12月期2Q	65,339,829 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。

なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在における将来の見通し、計画の元となる前提、予測を含んで記載しております。実際の業績は、今後の様々な要因によって、大きく異なる結果となる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】P4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報 .....	4
(3) 連結業績予想に関する定性的情報 .....	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	5
(4) 追加情報 .....	5
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要 .....	6
4. 四半期連結財務諸表 .....	7
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	9
四半期連結損益計算書 .....	9
四半期連結包括利益計算書 .....	10
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	11
(4) 継続企業の前提に関する注記 .....	13
(5) セグメント情報等 .....	13
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	14

○第2四半期決算 参考資料

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間(平成24年1月1日から6月30日)におけるわが国経済は、復興需要や消費マインドの回復により、緩やかな持ち直しが見られたものの、欧州債務危機を背景とした世界経済の下振れ懸念や円高の長期化、また、電力供給制限による生産活動への影響が懸念されるなど、先行き不透明な状況が続いております。

酒類業界におきましても、消費者の節約志向・低価格志向に加え、原料価格や原油価格などの高騰等が収益に影響を及ぼす厳しい経営環境となっております。

このような経営環境の下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、過去最高の40,328百万円(前年同期比2.3%増)となりました。

利益面では、原材料価格及びエネルギーコストの増加がありましたものの、売上高の増加、販売費及び一般管理費の削減等により、営業利益は1,207百万円(前年同期比10.0%増)、経常利益は1,177百万円(前年同期比8.2%増)となりました。また、前年同期に東日本大震災による損失や資産除去債務に関する会計基準の適用に伴う影響額を特別損失に計上していたため、四半期純利益は557百万円(前年同期比137.5%増)と過去最高となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、第1四半期連結会計期間より、表示方法の変更を行っており、前第2四半期連結累計期間についても当該変更を反映し、当第2四半期連結累計期間の比較・分析を行っております。

また、当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称について「バイオエタノール技術実証事業」を「バイオエタノール事業」に変更しております。

**【酒類事業】**

酒類事業では、市場環境の変化に対応できる収益基盤の構築を進めるとともに、お客様起点の発想に立った商品開発を推進いたしました。また、取引先との共同開発によるプライベートブランド商品についても積極的に取り組んだ結果、酒類事業合計の売上高は35,798百万円(前年同期比2.5%増)と増収となりました。利益面につきましても、売上高の増加のほか、販売費及び一般管理費の削減等により、営業利益は521百万円(前年同期比35.3%増)と大幅な増益となりました。

酒類事業のうち焼酎においては、主力商品の甲類焼酎「ビッグマン」や本格焼酎「博多の華 黒麴」シリーズ等の消費者キャンペーンを積極的に展開するなど、多くのお客様への認知度向上に取り組ましました。また、プライベートブランド商品が好調に推移したため、焼酎全体の売上高は19,535百万円(前年同期比1.3%増)となりました。

チューハイ、カクテル等の低アルコール飲料においては、既存商品のラインアップ強化を図るなど、飲用層の拡大に努めましたが、売上高は3,374百万円(前年同期比7.9%減)となりました。

清酒においては、家庭用市場向けに値頃感のある手軽な紙パック商品の販売に注力した結果、売上高は3,854百万円(前年同期比0.6%減)と前年同期並みとなりました。

合成清酒においては、トップブランドの「元禄美人」を中心に、業界トップシェアを維持したものの、需要が減退し、売上高は1,982百万円(前年同期比5.8%減)となりました。

アルコールにおいては、化粧品や味噌、製剤等に使用される工業用アルコールが大幅に伸張し、甲類焼酎や清酒等に使用される酒類原料用アルコールも増加した結果、アルコール全体の売上高は3,095百万円(前年同期比28.5%増)と大幅な増収となりました。

そのほか、みりんなどを含めた和酒部門全体の売上高は32,124百万円(前年同期比1.6%増)と増収となりました。

洋酒では、梅酒において、しそ焼酎「鍛高譚(たんだかたん)」と同じ原料を使用した「鍛高譚の梅酒」が家庭用市場、飲食店市場を問わずご支持をいただいたことなどにより、梅酒全体の売上高は前年同期と比較して増加いたしました。

ワインにおいては、手軽にご家庭でも楽しめるコストパフォーマンスの高い商品が好調に推移したため、ワイン全体の売上高は前年同期と比較して大幅に増加いたしました。

その他の洋酒においては、トマトのお酒「ラ・トマト」を中心とする「ラ・」シリーズから「ラ・とろり梅」を新発売したほか、プライベートブランド商品のウイスキーが増加した結果、売上高は大幅に増加いたしました。

その結果、洋酒部門全体の売上高は2,981百万円(前年同期比16.5%増)となりました。その他の部門については、飲食店等の売上が減少した結果、売上高は692百万円(前年同期比4.9%減)となりました。

#### 【加工用澱粉事業】

加工用澱粉事業については、前年同期と比較し、ビール醸造用やシリアル食品用コーングリッツ、植物油原料であるコーンジャーム等の売上が増加した結果、売上高は2,045百万円(前年同期比3.6%増)、営業利益は126百万円(前年同期比16.6%増)となりました。

#### 【酵素医薬品事業】

酵素部門では、国内における乳糖分解酵素等が伸張したことにより、売上高は増加いたしました。

原薬部門では、糖尿病治療用原薬が伸張したことにより、売上高は増加いたしました。

診断薬部門では、便潜血検査試薬が伸張し、その他の診断薬も好調に推移した結果、診断薬部門の売上高は増加いたしました。

その結果、酵素医薬品事業全体の売上高は1,799百万円(前年同期比4.2%増)、営業利益は434百万円(前年同期比20.4%増)となりました。

#### 【不動産事業】

不動産事業は、賃貸借契約に大きな変動がなく、売上高は198百万円(前年同期比4.6%減)となり、営業利益は141百万円(前年同期比3.2%減)となりました。

#### 【バイオエタノール事業】

バイオエタノール事業については、販売数量の減少により、売上高は463百万円(前年同期比19.8%減)となりました。さらに、本年1月に苫小牧工場にて発生した出火事故の影響で一部製造設備が停止し、工場稼働率が低下したため、23百万円の営業損失(前年同期は90百万円の営業利益)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第2四半期連結会計期間末の総資産につきましては、58,125百万円となり、前連結会計年度末と比較し2,693百万円の減少となりました。これは主に季節要因による売上高の減少により、受取手形及び売掛金等が減少したことによるものであります。

負債につきましては、38,014百万円となり、前連結会計年度末と比較して2,670百万円の減少となりました。これも主に季節要因による売上高の減少により、未払酒税及び未払金が減少したことによるものであります。

純資産につきましては、20,111百万円となり、前連結会計年度末と比較して22百万円の減少となりました。これは主に利益剰余金及びその他有価証券評価差額金が増加した一方で、自己株式を取得したことによるものであります。

(キャッシュ・フローの状況)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の残高は1,303百万円(前年同期比81百万円増)となり、前連結会計年度末と比較して430百万円の減少となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローにおける資金の増加額は、1,815百万円(前年同期比1,431百万円増)となりました。これは主に、未払酒税の減少額1,671百万円等がありましたものの、売上債権の減少額2,356百万円、税金等調整前四半期純利益1,191百万円等を計上したことによるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローについては、地方自治体からの補助金による収入91百万円がありましたものの、固定資産の取得による支出383百万円、子会社株式の取得による支出50百万円等がありましたので、376百万円(前年同期比2百万円減)の資金減少となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出550百万円、長期借入金の返済による支出545百万円、配当金の支払額460百万円、短期借入金の減少額370百万円等がありましたので、1,868百万円(前年同期比1,221百万円減)の資金減少となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成24年12月期の通期業績予想につきましては、平成24年2月10日発表の業績予想から変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

(4) 追加情報

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

表示方法の変更

従来、一部の連結子会社において発生するみりん等に係る拡売費及び決算日時点の一部未払拡売費について「販売費及び一般管理費」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より「売上高」から直接控除して表示する方法に変更しております。この変更は、適正な販売取引を実行するために拡売費を明瞭にするという当社グループの方針を踏まえ、実質的な売上高を明確にし、営業活動の成果をより適切に表示するために行ったものであります。

当該表示方法の変更を反映させるため、前第2四半期連結累計期間については、四半期連結財務諸表の組替を行っております。この結果、前第2四半期連結累計期間の売上高及び売上総利益が46百万円減少し、販売費及び一般管理費が同額減少しておりますが、営業利益、経常利益、税金等調整前四半期純利益への影響はありません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

該当事項はありません。



4. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,737	1,307
受取手形及び売掛金	22,918	20,562
有価証券	5	—
商品及び製品	6,767	7,121
仕掛品	330	348
原材料及び貯蔵品	1,374	1,280
繰延税金資産	865	693
その他	831	1,168
貸倒引当金	△21	△22
流動資産合計	34,809	32,459
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	25,503	25,479
減価償却累計額	△16,148	△16,484
建物及び構築物（純額）	9,355	8,995
機械装置及び運搬具	30,659	30,857
減価償却累計額	△26,033	△26,568
機械装置及び運搬具（純額）	4,625	4,289
その他	2,401	2,387
減価償却累計額	△2,031	△2,062
その他（純額）	370	324
土地	8,835	8,835
建設仮勘定	59	334
有形固定資産合計	23,246	22,779
無形固定資産		
のれん	538	524
その他	629	586
無形固定資産合計	1,168	1,111
投資その他の資産		
投資有価証券	1,032	1,089
長期貸付金	0	0
繰延税金資産	158	291
その他	415	417
貸倒引当金	△12	△22
投資その他の資産合計	1,594	1,775
固定資産合計	26,009	25,666
資産合計	60,819	58,125

オエノンホールディングス(株)(2533)平成24年12月期第2四半期決算短信

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,313	6,666
短期借入金	6,860	6,395
リース債務	58	58
未払金	4,551	3,894
未払酒税	9,745	8,073
未払法人税等	639	417
賞与引当金	57	59
役員賞与引当金	41	25
設備関係支払手形	288	464
災害損失引当金	22	—
その他	1,257	1,248
流動負債合計	29,835	27,304
固定負債		
長期借入金	5,810	5,460
長期預り金	3,273	3,318
リース債務	129	103
退職給付引当金	1,219	1,240
資産除去債務	148	137
繰延税金負債	148	306
その他	121	145
固定負債合計	10,849	10,710
負債合計	40,685	38,014
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	6,946	6,946
資本剰余金	5,576	5,576
利益剰余金	5,353	5,453
自己株式	△75	△178
株主資本合計	17,800	17,798
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△32	2
繰延ヘッジ損益	6	△8
その他の包括利益累計額合計	△26	△5
少数株主持分	2,359	2,318
純資産合計	20,134	20,111
負債純資産合計	60,819	58,125

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 四半期連結損益計算書  
 第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
売上高	39,437	40,328
売上原価	31,646	32,581
売上総利益	7,790	7,746
販売費及び一般管理費	6,692	6,539
営業利益	1,097	1,207
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	17	15
受取賃貸料	38	39
為替差益	8	—
負ののれん償却額	81	41
雑収入	27	27
営業外収益合計	173	124
営業外費用		
支払利息	166	126
雑損失	15	27
営業外費用合計	182	154
経常利益	1,088	1,177
特別利益		
受取補償金	—	113
ゴルフ会員権償還益	12	—
その他	5	1
特別利益合計	17	114
特別損失		
固定資産除売却損	3	19
減損損失	—	79
災害による損失	414	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	132	—
その他	13	2
特別損失合計	564	100
税金等調整前四半期純利益	540	1,191
法人税等	264	585
少数株主損益調整前四半期純利益	276	605
少数株主利益	41	48
四半期純利益	234	557

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	276	605
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△25	35
繰延ヘッジ損益	3	△14
その他の包括利益合計	△21	20
四半期包括利益	254	626
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	213	578
少数株主に係る四半期包括利益	41	48

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	540	1,191
減価償却費	1,370	1,168
減損損失	—	79
のれん償却額	29	31
負ののれん償却額	△81	△41
退職給付引当金の増減額(△は減少)	28	21
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△18	—
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△3	11
賞与引当金の増減額(△は減少)	6	1
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△14	△16
受取利息及び受取配当金	△17	△15
支払利息	166	126
投資有価証券評価損益(△は益)	0	—
固定資産売却損益(△は益)	—	△0
固定資産除売却損益(△は益)	3	19
ゴルフ会員権評価損	1	—
ゴルフ会員権売却損益(△は益)	△2	△0
ゴルフ会員権償還損益(△は益)	△12	—
受取補償金	—	△113
災害損失	414	—
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	132	—
売上債権の増減額(△は増加)	5,814	2,356
たな卸資産の増減額(△は増加)	△677	△278
仕入債務の増減額(△は減少)	△882	353
未払酒税の増減額(△は減少)	△3,898	△1,671
その他の流動資産の増減額(△は増加)	21	△6
その他の流動負債の増減額(△は減少)	△1,134	△741
その他の固定負債の増減額(△は減少)	39	56
その他	△486	△72
小計	1,341	2,457
利息及び配当金の受取額	17	15
利息の支払額	△193	△157
災害損失の支払額	△251	—
補償金の受取額	—	113
法人税等の支払額	△528	△614
営業活動によるキャッシュ・フロー	384	1,815

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年1月1日 至平成23年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年6月30日)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
国庫補助金による収入	6	11
地方自治体からの補助金による収入	—	91
固定資産の取得による支出	△404	△383
固定資産の除売却による収支 (△は支出)	69	△8
投資有価証券の取得による支出	△14	△1
子会社株式の取得による支出	△5	△50
その他	△25	△34
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△373</b>	<b>△376</b>
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	3,170	△370
長期借入れによる収入	300	100
長期借入金の返済による支出	△3,615	△545
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△29	△29
配当金の支払額	△458	△460
少数株主への配当金の支払額	△14	△14
自己株式取得目的の金銭の信託の設定による支出	—	△550
その他	△0	0
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△647</b>	<b>△1,868</b>
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△637	△430
現金及び現金同等物の期首残高	1,859	1,733
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,221	1,303

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報等

1 報告セグメントの概要

当社の報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分及び評価をするために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは製品・サービス等を基礎としたセグメントから構成されており、「酒類」、「加工用澱粉」、「酵素医薬品」、「不動産」、「バイオエタノール」の5つを報告セグメントとしております。

各報告セグメントの主な製品・サービスは、次のとおりであります。

事業区分	主な製品・サービス
酒類	焼酎、チューハイ、清酒、合成清酒、梅酒、加工用洋酒、ワイン、酒類原料用・工業用アルコール、調味料、食品（副産物）、飲食店経営
加工用澱粉	加工用澱粉
酵素医薬品	酵素、原薬、診断薬、健康食品素材
不動産	不動産の売買、不動産の賃貸
バイオエタノール	バイオエタノール、エタノール蒸留粕

2 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年1月1日 至 平成23年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール 技術実証	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	34,918	1,974	1,726	207	577	39,406	31	—	39,437
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3	—	—	—	—	3	—	△ 3	—
計	34,922	1,974	1,726	207	577	39,409	31	△ 3	39,437
セグメント利益	385	108	361	146	90	1,091	5	—	1,097

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年6月30日)

(単位：百万円)

	報告セグメント						その他 (注)1	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	酒類	加工用 澱粉	酵素 医薬品	不動産	バイオエ タノール	合計			
売上高									
(1) 外部顧客に 対する売上高	35,798	2,045	1,799	198	463	40,304	23	—	40,328
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	1	—	—	—	—	1	—	△1	—
計	35,799	2,045	1,799	198	463	40,305	23	△1	40,328
セグメント利益又は セグメント損失(△)	521	126	434	141	△23	1,200	6	—	1,207

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、倉庫業・荷役業等であります。

2 調整額は、セグメント間の取引消去であります。

3 セグメント利益又はセグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

従来、一部の連結子会社において発生するみりん等に係る拡売費及び決算日時点の一部未払拡売費について「販売費及び一般管理費」に計上しておりましたが、第1四半期連結会計期間より、「売上高」から直接控除して表示する方法に変更しております。

この結果、「酒類」セグメントの前第2四半期連結累計期間の売上高が46百万円減少し、販売費及び一般管理費が同額減少しておりますが、セグメント利益への影響はありません。

3 報告セグメントの変更等に関する事項

当第2四半期連結会計期間より、報告セグメントの名称について「バイオエタノール技術実証」を「バイオエタノール」に変更しております。なお、当変更によるセグメント情報に与える影響はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。